

7/28(木) 場所：アオッサ 607 (福井市)

NPO 法人共存の森ネットワーク (東京都) 理事長

(里山里海湖研究所 研究アドバイザー) 澁澤 寿一 氏

講座名：里山の暮らしから見える、未来の社会と地域活性化

参加人数：42名

●現代社会の問題点を指摘し、持続可能な社会を形成するために人と人、人と自然、農村と都市の関係性について再構築することが必要であると説明した。また、秋田県の事例から里山の利用方法や持続可能な里山での暮らし方を紹介した。参加者からは「里山は地域経済と人の心が再生できると確信が持てた」、「一つの仕事でなくてもいくつかの仕事を組み合わせて生活できればいいという考え方が参考になった」という意見が聞かれた。



8/4(木) 場所：アオッサ 607 (福井市)

フードジャーナリスト 向笠 千恵子 氏

講座名：『食』は福井にあり - 里・里山・里海湖の暮らしから生まれた食文化 -

参加人数：49名

●福井県の里山里海湖の伝統的な食材や料理、調理方法といった食文化について紹介した。福井県は地域によって特産食材がさまざま、多様な食文化が隣り合っているのが特徴であり、その美味しさは水や職人の技からくるものだと説明した。参加者からは「食の環境に恵まれた福井の住民であることに今更ながら幸せを感じた」、「福井県の昔からの美味しいものには何があり、どのように発達してきたか知ることができた」という意見が聞かれた。



9/16(金) 場所：アオッサ 607 (福井市)

東京農業大学非常勤講師

(ふくい農業ビジネスセンターゼネラルマネージャー) 宮田 正信 氏

講座名：環境保全活動での内発性について - 小笠原環境ボランティア活動を通して -

参加人数：36名

●まず、小笠原諸島の特有の植物や動物、それらの生態系について紹介した。次に、小笠原諸島での学生ボランティア活動と地元住民との関わり、ボランティア活動による学生の内発性の高まりとボランティア活動の継続性について説明した。参加者からは「環境ボランティア活動のアドバイスが参考になった。今後の保全活動に活かしていきたい」、「内発性により活動が継続されていく。このような事例の話が聞けて良かった」という意見が聞かれた。



10/7(金) 場所：アオッサ 607 (福井市)

追手門学院大学地域創造学部地域創造学科教授 橋本 裕之 氏

講座名：郷土芸能で地域づくり、地域づくりで郷土芸能-福井県と岩手県の事例を通して-

参加人数：29名

●王の舞の特徴と昔からの地域の人たちとのつながりについて紹介した。また、弥美小学校の祭礼学習の事例から、祭礼学習により子供たちが郷土の伝統文化を見直し、誇りを持つことにつながるといった祭礼学習の重要性を説明した。最後に、被災した岩手県の鶴鳥神楽について被災からの支援活動を紹介した。参加者からは「郷土芸能（王の舞）について興味深く勉強させていただいた。地域にもう少し関心を持ち、何かできないか考えたい」、「伝統芸能と地域づくりの関係が非常に興味深かった」という意見が聞かれた。



11/11(金) 場所：アオッサ 607 (福井市)

NHK報道局「おはよう日本」ディレクター 夜久 恭裕 氏

講座名：福井と里山資本主義

参加人数：62名

●まず、里山資本主義とは何かということから話をし、日本では震災後、里山資本主義が見直されてきたと説明した。次に、山口県、広島県、島根県の成功した事例を挙げ、里山資本主義の成功の秘訣を紹介した。最後に、活動は明るく楽しくやるのが大切であり、日本には世界をリードする宝があると参加者に伝えた。参加者からは「実際に自分が取材してきたことを話して頂き、大変興味深い話だった」、「地域が元気になる期待感の高まる内容が聞けてよかった」という意見が聞かれた。

